



琴似二十四軒まちづくりセンターの2階。現在は水曜のみ開館している。

## 道内各地の屯田兵村は、琴似から始まった

西区

### ことにとんでんれきしかん しりょうしつ 琴似屯田歴史館 資料室

#### 適地として兵村第一号に

明治7年(1874)に発足した屯田兵制度をもとに開拓使は道内37カ所、札幌市内では4カ所の屯田兵村を開設。その中でも最初に誕生したのが琴似屯田兵村である。当時開拓使顧問であったホーレス・ケプロンの進言に従い、札幌本府から近く交通・通信の要衝であったこの地が選ばれた。移住したのは主に旧仙台藩士や旧会津藩士たちとその家族である。明治8年(1875)に208戸が移住し、さらに分村として発寒地区にも32戸が入り、計240戸をもって第一大隊第一中隊が編成された。その後の各地での兵村づくりに当たっては、琴似の経験が大いに活かされ、新設された兵村の指導者を数多く輩出している。

その琴似を“屯田兵村発祥の地”として、

古文書や図書、農機具など貴重な資料を収集・展示しているのが、この資料室だ。琴似神社境内に現存する「琴似屯田兵屋」(北海道指定有形文化財)と近接しているので、両方を巡ってみると一層理解も深まりそうだ。



建坪17.5坪、茅葺き土壁の兵屋が並ぶ琴似屯田兵村の様子。(写真所蔵/北海道大学附属図書館)

住所：西区琴似2条7丁目1-10  
西区役所分庁舎内  
電話：011-614-8245  
休館日：月・火・木・金・土・日曜、祝日、お盆、年末年始  
観覧時間：10:00～16:00  
アクセス：地下鉄東西線「琴似」駅1番出口から約350m  
資料収蔵数：約2,000点  
開館年：平成7年(1995)



片倉家の元家臣たちが乗船した「威臨丸」「庚午丸」の精緻な模型も見どころ。

## パネル解説と映像資料でじっくり学ぶ

白石区

### しろいしきょうどかん 白石郷土館

#### 郷里の城を離れ、新天地へ

平成28年に完成した白石区複合庁舎の1階。白石郷土館の入口で出迎えるのは、旧仙台藩の白石城(現在の宮城県白石市)初代当主、片倉小十郎景綱の甲冑(複製)だ。

仙台藩が戊辰戦争に敗れ領地を失った片倉家の元家臣たちは新政府の救済策で北海道札幌郡への移住を決意。明治4年(1871)、家族共々600人余が開拓使の船、「威臨丸」「庚午丸」に分乗し北を目指した。第1船の「威臨丸」は400人余を乗せ木古内沖で座礁し、移住団は大半の荷物を失うも、命からがらに脱出。第2船の「庚午丸」に合流して小樽港に到着した。苦難の末に380人が白石村となるモウチキサッフ、少し遅れて241人が手稲村となるベッカウスへと住まいの地を定め、刀を斧や鋤に持ち替え宅地

や農地造りに励んだ。

同館では移住貫属団を束ねた取締役の佐藤孝郷の紹介、酪農や白石レンガの産業史など、白石村が札幌市と合併した昭和25年(1950)までの記録を、パネルによる展示などで紹介している。



鉄砲鍛冶を揃えて仙台藩の最強鉄砲隊を育てた片倉家の火縄銃(模型)。その砲術は現在「片倉鉄砲隊」として宮城県白石市で再興され、白石区にも承継されつつある。

住所：白石区南郷通1丁目南8-1  
白石区複合庁舎1階  
電話：011-861-2405(区総務企画課)  
休館日：土・日曜(第2土・日曜は開館)、祝日、年末年始  
観覧時間：8:45～17:15  
アクセス：地下鉄東西線「白石」駅直結  
資料収蔵数：約70点  
開館年：平成28年(2016)